



開校 140 年を人文字で



当別小学校（菊地秀夫校長）では開校 140 周年を記念して、航空記念写真撮影が行われました。

同校グラウンドにデザインされた当別小学校の校章と「140th 2012」の文字上に全校児童が並び、人文字で表しました。また、当日は同校出身の方も訪れ、一緒に記念となる撮影に加わり楽しんでいました。

(6 月 22 日)

自分の地域は自分で守る



当別消防訓練大会が当別駅前大通で行われ、消防署員・消防団員ら約 320 名が参加しました。

消防団員は住民の安全を守るための大切な存在であり、東日本大震災以降は「自分の地域は自分で守る」という住民意識がより強くなっています。それにともなって、防災組織への期待も大きくなっています。

大会では、消防団員によって消防ポンプ操法や一斉放水が行われ、町民や幼稚園児らが見守る中、緊張した面持ちで訓練に参加していました。

(6 月 23 日)

商店街活性化セミナー



町内の商店街に活気を取り戻そうとセミナーが開かれました。

中心地の空洞化が進んだ青森市で、官民あげて賑わいを取り戻すことに成功した加藤博氏を講師に招き、いきいきした商店街をつくるまでの体験談を失敗例も交えて話されました。「今後は、お年寄りに優しいコンパクトなまちづくりが求められている。今までのような消費は望めなく、所得より幸福度という尺度で考え、消費者の目線に立つこと。」と説得力のある持論を展開、60 人の参加者は共感を持って聞いていました。

(7 月 6 日)



風と緑のコンサート



七夕を前日に控え、風と緑のコンサートが当別ふくろうの会の主催で開催されました。

2年前にも来町したギター、バイオリン、アコーディオンの編成によるグループ「オオフジツボ」の演奏で、すがすがしい北海道をイメージした演目など15曲あまりを披露。情熱的な演奏にいつまでも拍手が続きました。ふくろうの会では「3年前の当別での演奏会では1組のカップルが誕生しました。明日の七夕にちなんでもハッピーな気持ちになって欲しい。」と話していました。

(7月6日)

文学碑と本庄陸男



当別町出身のプロレタリア文学作家本庄陸男^{むつお}氏を偲ぼうと、文学碑「石狩川」の献花式が当別町観光協会の主催で行なわれました。

当別町ビトエの石狩川堤防に建立されている文学碑は、本庄の故郷に捧げた愛情と業績を残そうと昭和39年、本庄の25周忌にあわせ建立されました。献花式では黙祷と献花の後、当別音頭を守る会が碑の周りで「当別音頭」と、岩出山からの入植者が行事の都度踊ったとされている「三叉時雨^{さんさしぐれ}」を踊り、34歳の若さで亡くなった本庄氏を偲びました。

(7月20日)

